

授業実施評価レポート

2024年度 基盤教育センター

1. 2023年度の状況

① 成績評価アンケート

基盤教育科目の成績評価アンケートの結果は、人間社会学部・看護学部において無回答の学生はそれぞれ若干名いたものの、全学部全学科においておよそ90%学生が透明性・客観性・妥当性・公平性の全てにおいて不足する科目はないと回答しており、概ね良好であったと思われる。自由記述においては、人間形成学科1名(学年不明)1名の「テストの情報や結果が出るのが遅い。再試の有無の連絡がなかったと思う。」(原文のまま)、社会福祉学科1名(学年不明)の「成績公表期間が守られていなかった点、試験部間近まで試験についての詳細(形式)を教えてもらえなかった点。」(原文のまま)に関しては、どの科目に対する意見か分からないため当該教員から意見を求めることはできないが、前者は再試をするか否かの情報を基盤科目の教員が改めて共有すべきであり、また、後者は近年の郵便収集システムの変更から非常勤講師から送られてくる成績が本学に届くのが遅くなっていることも一因として考えられるとした。加えて、前年度は学生の意見がどの科目に対するものであるかが明確に分かっていたので、アンケートの取り方を再考すべきと考える。

一方、公共社会学科・看護学科では、検討してほしい科目に関する自由記述は1～4年生までの全学年を通して全く記載なかったことは、多くの学生が成績評価に対して納得していると考えられたことから、概ね良好であったと思われる。

② 成績分布及び受講者数

教養科目は選択必修だが、受講者が200名を超える科目がある一方、20名を下回る科目(数学概論、宗教学)も見受けられた。「数学概論」は、データサイエンス・プログラムの共通基礎科目であり、高等学校教諭一種免許(情報)に関わる重要な科目だが、2022年度の受講者数は15名、2023年度9名、2024年度8名と減少傾向にある。よって、学期初めのガイダンスやデータサイエンス・プログラムの説明会などの場での同科目の重要性の周知の必要性がある。「宗教学」は元は前期集中講義であったが担当する非常勤講師の体調不良により後期集中講義に変えざるを得なかったことが大きく影響し、受講予定だったが履修できなかった学生が一定数いたようである。今後は開講時期を戻すことができれば受講者は増えると予想される。

「教養科目及び基礎科目」において成績に「不可」が多い科目は「哲学」(27%)、「哲学的人間学」(14%)であった。「哲学」は2023年度の担当教員(非常勤講師)が辞職したため不可の多さの原因は不明である。現在の担当教員(非常勤講師)に評価の方法を検討することを促すこととした。「哲学的人間学」は基本的には再試験を行う予定だったが、不可となった学生の成績が非常に悪かったため行わなかったとの回答を担当教員(非常勤講師)から得た。2025年度から試験の在り方を見直し、一度不可になった学生への対処をするとのことである。

受講者全員が成績 S だった科目は「教養演習」の 1 科目（2 クラス）、また「経済学」は S が 87% だった。「教養演習」は授業開始時と成績評価をする時期に科目責任者が担当教員に成績評価方法について確認するよう連絡をしているが、依然として 2023 年度も S 評価が多く出したり若干ではあるが前年度の成績評価方法を採用したりした教員がいた。「経済学」は 2022 年度とは異なる教員（非常勤講師）が担当したため、事前に受講者の学習レベルを把握できず、適切な難易度にする事ができなかったとのことであった。

「外国語科目」において、S の割合が 3 分の 2 を超えていたのは「仏語Ⅱ-(1)」、「海外語学実習」、「海外語学実習事前指導」の 3 科目だった。そのうち仏語に関しては、担当教員（非常勤講師）に評価方法や成績評価方針について確認を取り、回答を得た。2023 年度は 2022 年度の成績分布の結果を踏まえレベルを上げた教科書を採用し、内容を吟味することで対応をしたが、結果としては S 評価が多くなったとのことだった。

また、成績 S と A を合わせた割合が 7 割以上なのは「スピーキング・リスニング上級 (1)」、「スピーキング・リスニング上級 (2)」、「コリア語Ⅰ-(1)」、「コリア語Ⅱ-(1)」、「中国語Ⅰ-(1)」、「中国語Ⅰ-(2)」、「中国語Ⅱ-(1)」、「仏語Ⅱ-(1)」、「海外語学実習」、「海外語学実習事前指導」の 10 科目だった。「中国語Ⅰ-(1)」、「中国語Ⅰ-(2)」については 2022 年度の担当教員（非常勤講師）が退職し 2023 年度は新しい教員（非常勤講師）に担当が変わったので、成績評価方法等について問い合わせができなかった。「コリア語Ⅰ-(1)」、「コリア語Ⅱ-(1)」、「中国語Ⅱ(1)」、「仏語Ⅱ-(1)」についてはいずれも成績評価方法は前年度から変更していないが、2023 年度は良い成績の学生が増えたとの回答を担当教員から得た。「スピーキング・リスニング上級 (1)」、「スピーキング・リスニング上級 (2)」に関しては、入

学時の外部英語テストの成績を基に一年生のトップ約 30 人を集めたクラスなので成績が偏らないように様々な課題を与え厳密な評価方法を採用したが、結果としてはSとAが多く出てしまったとのことである。

「海外語学実習事前指導」（10名）と「海外語学実習」（8名）は、履修生がイギリスに語学研修に行くことに熱意を持ち、すべての課題や実習をクリアしたため前者は9名がS評価（1名はA評価）、後者は全員S評価となった。

「情報処理科目」は選択必修だが、受講者が140名を超える科目がある一方、20名を下回る科目が1科目（情報処理演習ⅡA）見受けられた。この科目は看護で養護教諭サブコースを選択する学生には必修であり、昨年度より同コースが選択制（希望者は全員履修可能）になったことから、資格取得希望者は多くなっている。しかしながら、月曜3限に養護教諭資格必修授業（教育学概論B）が開講され、情報Ⅱも資格必修授業であることから、養護教諭資格を希望する多くの学生が3限に教育学概論、4限に情報処理演習ⅡBを受講することになり、両クラスの偏りが生じた。

SとAの成績者のみで7割以上の科目が8科目中2科目あり、「情報処理の基礎と演習」と「情報処理応用演習」であった。一年次前期開講の「情報処理の基礎と演習」はPCを使って大学での調査・発表・レポート作成が問題なく行えるような、大学で学ぶ上での必須基礎スキルを身に着けることを目標とする科目であり、そのため基本操作が問題なく行えるように丁寧に指導している。授業時間内に十分な演習時間を取って教員とTAで学生の様子を見回りながら指導や質問対応しており、また加えて授業動画（操作画面含む）を残して授業時間外で視聴できるようにし、また課題質問もメール等で適宜対応できるようにした。

一年次後期開講の「情報処理応用演習」についても「情報処理の基礎と演習」の続きとなる科目で、応用でき項目も含まれるが基本的な進め方は同様（TAはいない）であり、授業時間での対面指導に加えて授業

動画を残して授業時間外で視聴できるようにし、課題質問もメール等で適宜対応できる仕組みを作って授業を行った。そのため高成績に寄ったのだと判断される。

健康科学科目では、SとAの成績者のみで7割を超える科目が1科目あり、「健康科学実習ⅡA（福祉）」であったが、健康科学実習Ⅱ全体としてみると7割を超えていないことから、福祉学科の学生の能力が特に高いと思われるため、大きな問題はないと判断した。

全学横断型科目については、選択必修であるにも関わらず受講者が180名を超える科目があった一方、20名を下回る科目（「プレ・インターンシップ」、「問題解決演習」、「日本語ライティング」）があった。「プレ・インターンシップ」では学生は通いやすい位置にある派遣先企業希望するが、そのような企業は限られており、かつ、夏季休暇中の他科目の集中講義と日程が重なっていたことから履修生の数が少なくなった。「問題解決演習」は企業見学の受け入れ先が職場見学、質疑応対、評価などをするため15名以上の学生を受け入れることが困難なため、20名以下とならざるを得ない。上記2科目は企業・学生ニーズのミスマッチや時間割の検討が必要と考える。「日本語ライティング」は担当教員（非常勤講師）の学生への期待が高く、学生の実際のレベルより高い到達点を目指すような授業になるため、学期途中で履修をやめる学生がいる。そのことが受講者数の少なさに表れているとの回答を担当教員から得た。しかし、現状では授業目標やプランが学生のニーズや能力に合っていないということになるので、今一度本学の学生の観察、および、授業計画の練り直しを図るべきである。

成績に不可が多いのは「情報ネットワーク論」（10.7%）だった。受講者は56名と多いが、不可だった学生の成績の内訳を担当教員が確認すると、欠席が多く、課題提出も悪く、試験の出来も20～30点台であ

った。再試験も実施したが、本試験不合格者 10 名（無資格者除く）のうち申請者が 8 名、実際の受験者は 4 名と、学生の学習意欲の低下に起因するものであった。

2. 2022 年度レポート対応プランの結果

- ① 2022 年度では教養科目は選択必修だが、受講者が 200 名を超える科目がある一方、20 名を下回る科目（「数学概論」、「物理学」）も見受けられた。科目の必要性や妥当性について確認した結果、学生の興味関心をもとに今後再検討していくこととした。2023 年度では「数学概論」で同様の結果になったが、「物理学」は科目名が上がらなかったことから改善されたと判断する。
- ② 受講者全員が「科学史」については、経年で様子を見ることとしたが、2023 年度では S の数が減ったことから評価内容が改善されたと考える。
- ③ 「教養演習」では、ほとんどの担当で、S 評価と A 評価となっていたうえ、S 評価が 0 のクラスも見受けられた。科目の特徴も考慮しながらも、年度初めのガイダンスにおいて評価方法や成績評価方針に加え、S の評価基準を担当教員で再確認および共有することとした。2023 年度は改善されたが S と A が多いクラスが比較的多かったが、公平性に留意した担当教員が増えたことがグラフから見受けられ、改善の兆しがあると考ええる。
- ④ 「憲法」および「政治学」においては特異的なコメントがあったが、担当教員に確認しその回答から特段の問題はないと判断し、このようなコメントも学生の生の声であり、真摯に受け止め、講義の改善に努めるように教員間でコメント内容等を共有することとした。2023 年度はこの 2 科目のアンケート結果にそのようなコメントはなくなった。これは担当教員の努力が実った結果であろう。

- ⑤ 「オーラルコミュニケーションⅠ」、「オーラルコミュニケーションⅡ」については、専任教員が担当教員（非常勤講師）に成績評価基準について再度確認し、学生に公平な発表の機会を与えるよう指導したことで、改善されたと考え、引き続き教員間での情報共有を行うこととした。2023年度も再度問題が見受けられた際、その都度教員間で対応策を考え、担当教員に連絡し実行してもらうことで学生の評価基準への不満は以前より減り、改善へと向かった。
- ⑥ 「Introduction to Studying in English」の受講者数は2022年度では9名が受講し、前年度よりも増加した。しかし、2023年度は受講者が1名と大きく減少したことから、今後対応をすべきである。
- ⑦ 自由記述において「妥当性が不足する科目がいくつもあった」と回答した学生が1名いた。1名ではあるが、「いくつもあった」ということから、今後教養科目の改善に向けて検討することとした。2023年度ではそのようなコメントはなかったことから改善はなされたとできる。
- ⑧ 2022年度では、科目の性質に関わりなくS評価に大きく偏る科目や、SとA評価が8割を超える科目については、授業内容の難易度を引き上げて偏りが生じないように、再度センター内の担当教員間で周知することとした。2023年度はそのような科目は若干減ったものの、難易度を引き上げても評価がSになる科目もあることが分かった。教養演習などの基礎的知識や技術を学ぶ科目に関しては、成績判定のばらつきや教員ごとに授業内容が異なるなどの記述が見られたので、偏りなどがないように教員間の情報交換の場を設け、周知改善することになっていた。2023年度は科目責任者が情報交換を設けるとともに、学期の始めと成績評価を始める時期の2回にわたり成績の偏りに留意するように呼び掛けた。まだ偏りがある教員もいるが2022年度よりは成績分布に留意した担当教員が増えたので取り組みが功を奏したと言える。

3. 対応プラン

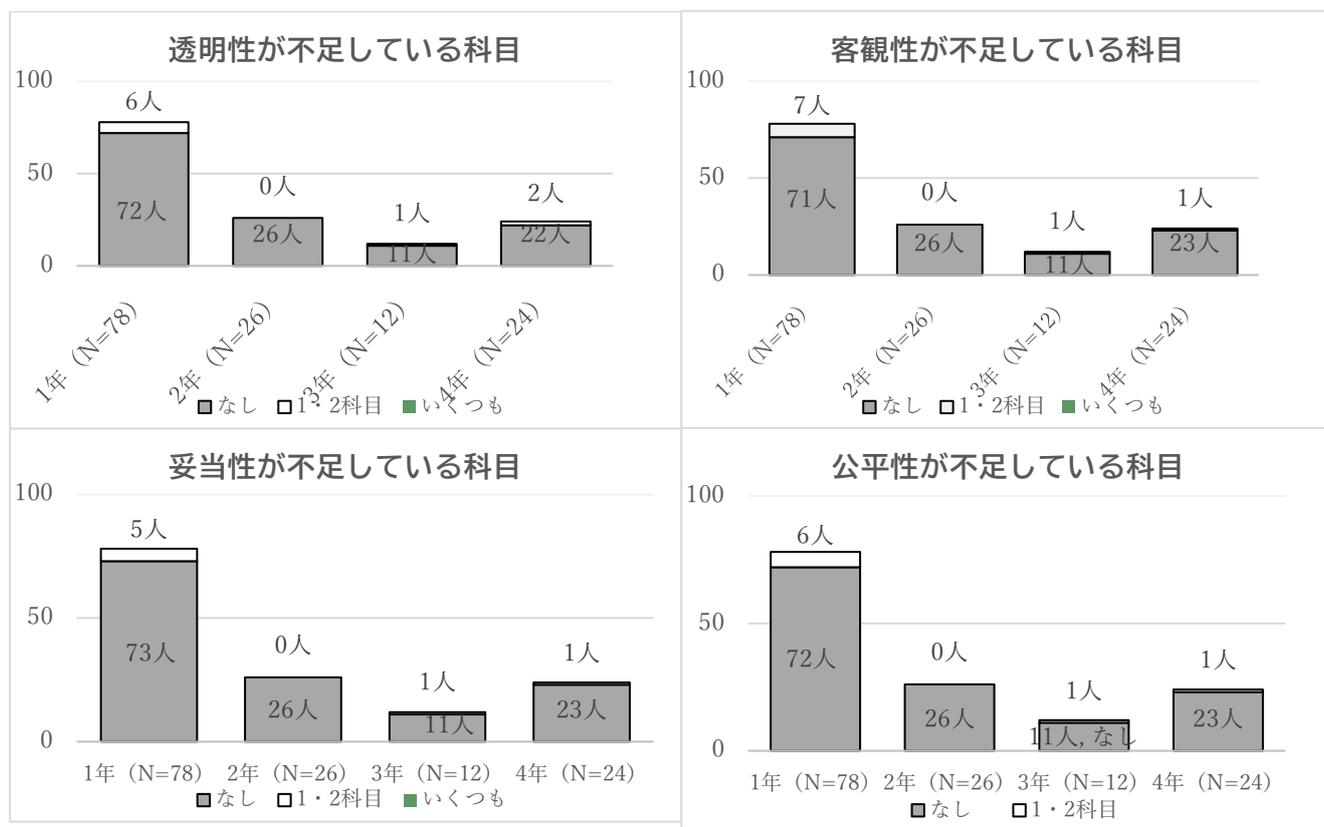
- ① 教養科目：受講者が20名を下回った「数学概論」では学期始めのガイダンスやデータサイエンス・プログラムの説明会などの場で本科目の重要性を強調し、受講者数の増加に向けて取り組むこととする。「宗教学」については担当教員の体調不良が原因で変更になった開講時期（前期集中講義）を元の後期集中講義に戻し受講者増を目指すこととする。
- ② 教養科目及び基礎科目：「不可」が多かった「哲学」では2023年度から担当している教員（非常勤講師）に評価の方法を検討を促すことに、「哲学的人間学」では学生の学習姿勢などを観察し、評価方法や追試験実施について検討するよう促す。「経済学」は担当教員（非常勤講師）に成績分布の点検をするよう促し、経過を見ることにする。また、2025年度からは同科目は新しく着任する専任教員が担当するため、成績分布に関する情報を共有し、そのあり方に留意してもらうこととする。「教養演習」は授業開始時と成績評価をする時期に科目責任者が担当教員に成績評価方法について慎重に確認するよう連絡をとることにした。高い成績の学生が多く出た言語科目についてはいずれも評価方法を見直し、成績にむらがないよう心がけることにする。「Introduction to Studying in English」は時間割を木曜日2限から木曜日3限に変更し、新学期のオリエンテーション以外でも一年生の英語の授業内で科目の説明を行い、受講者増加に向けて対応をする。
- ③ 情報処理科目：受講者数が20名以下の「情報処理演習Ⅱ」は、養護教諭サブコースを選択する学生にとって必修の「教育学概論B」と同じ時限（月曜3限）に開講されているため、同コースの学生がより多く受講できるよう、偏りが生じないようにする。「情報処理の基礎と演習」と「情報処理応用演習」については、採点基準を見直し昨年度に比べてSの割合が大きく減ったが、更なる厳格化を検討してゆくこととする。

- ④ 全学横断型科目：「プレ・インターンシップ」は派遣先企業の場所に関わらず、この科目が企業で自らを向上させるチャンスと捉えるように促すことで受講者数の増加を目指す。「日本語ライティング」については担当教員（非常勤）に今一度学習内容や評価方法を検討するよう促すこととする。

添付資料

- ・成績評価アンケート結果
- ・科目成績分布及び受講者数

(1) 基盤教育科目(看護学部看護学科)

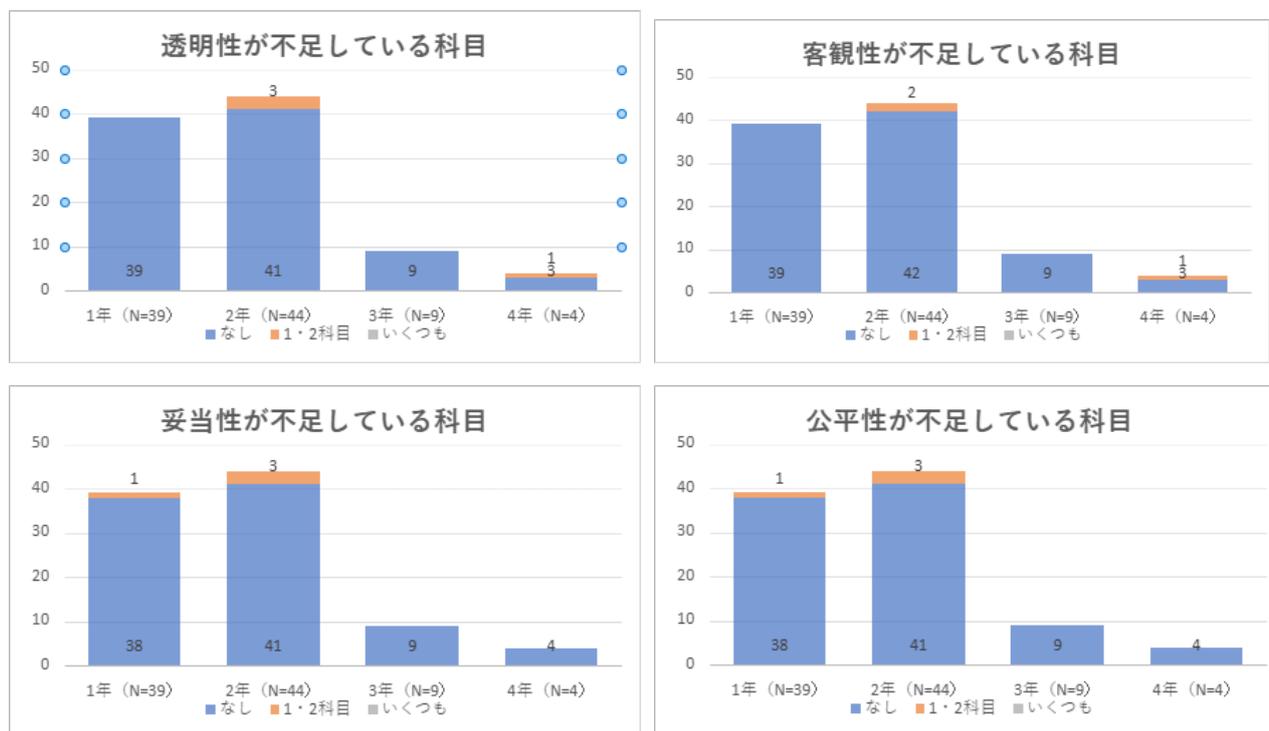


(1) -2

1. 基盤教育科目の評価については、いずれの項目も1～3年生については90%～100%の学生が不足する科目はないと回答している。ただし、4年生に関しては、回答者は少ないものの4～8%の学生(24名中1～2名)において、いずれの項目についても、受講した基盤教育科目の1つか2つには不足する項目がある科目があったと回答していた。
2. 学年別では、2～4年生で基盤教育科目を受講する学生が全体の20%以下となっており、基盤教育科目の受講は1年生に集中していた。

図1 基盤教育センター 基盤教育科目(看護学部看護学科)全体の成績評価アンケート結果

(2) 基盤教育科目(人間社会学部公共社会学科)

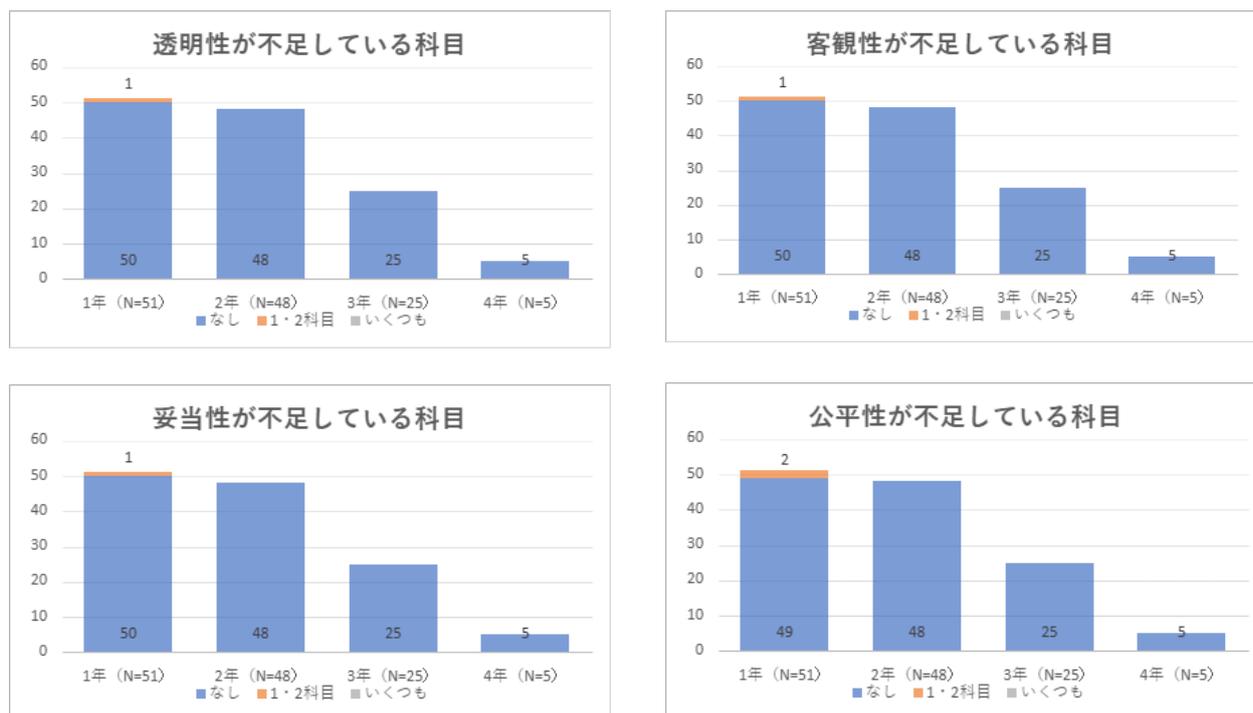


(2) -2

1. 公共社会学科では、基盤教育科目の成績評価に関する4項目において、「そのような科目がいくつもあった」という回答は0でした。1年生では、「無回答」が2名、また約90%が4項目において「なかった」と回答しています。「1つ2つあった」との回答は「妥当性」と「公平性」が1名でした。2年生においては、3名が「無回答」でした。また「1つ2つあった」との回答は、「透明性」「妥当性」と「公平性」が3名、「客観性」が2名となっています。

図2 基盤教育センター 基盤教育科目(人間社会学部 公共社会学科)の成績評価アンケート結果

(3) 基盤教育科目(人間社会学部社会福祉学科)

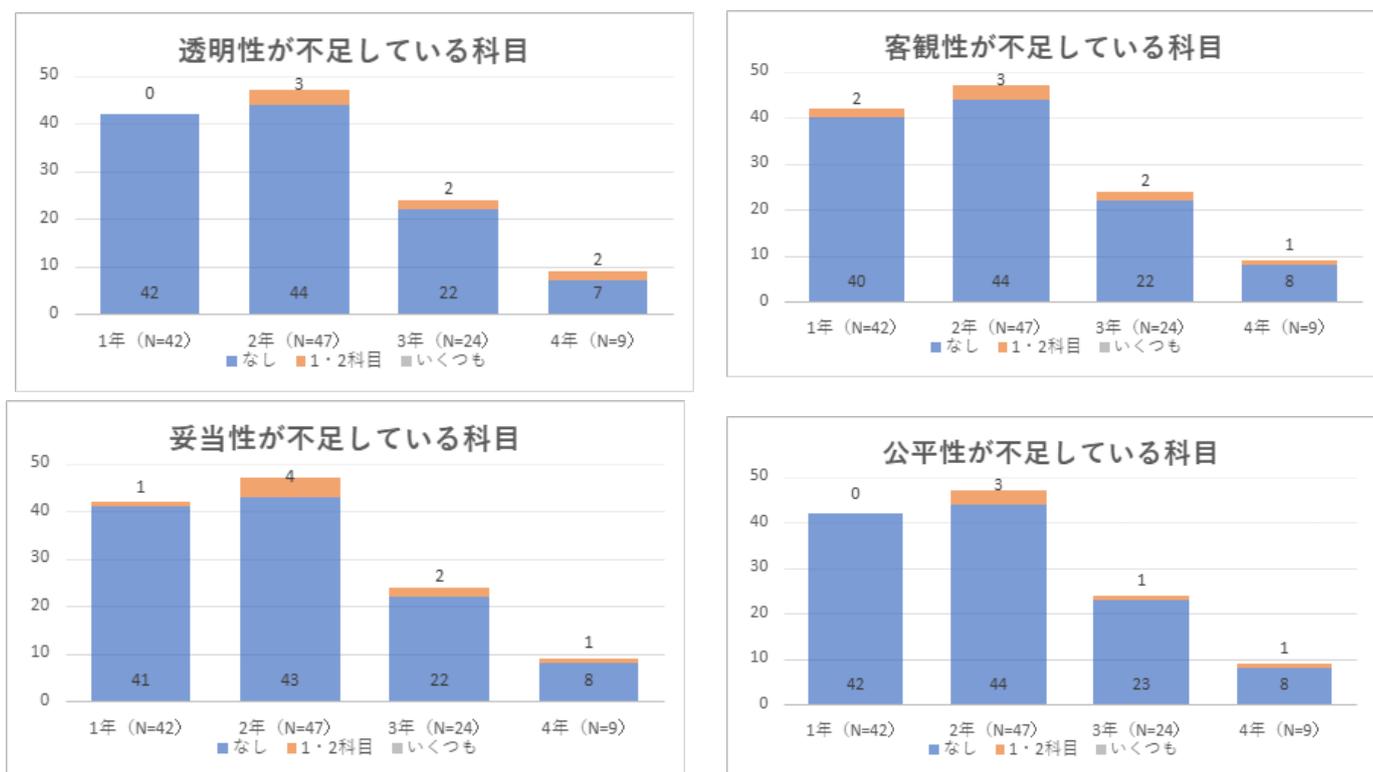


(3) -2

1. 社会福祉学科では、基盤教育科目において「客観性・妥当性が不足する科目がいくつもあった」との回答はそれぞれ1でした。(2年生)
2. 1年生では、「無回答」が1名、また約90%が4項目において「なかった」と回答しています。「1つ2つあった」との回答は、「透明性」と「妥当性」と「客観性」が1名、「公平性」が2名となっています。2年生においては、5名が「無回答」、約90%が4項目において「なかった」と回答しています。また「1つ2つあった」との回答は、「透明性」と「客観性」が0名となっています。
3. 学生の学年・科目共に不明ですが、「成績公表期間が守られていなかった点、試験日間近まで試験についての詳細(形式)を教えてもらえなかった点」との自由記述がありました。成績公表期間については昨今の郵便事情から非常勤講師からの成績到着に遅れがみられることが考えられます。また、試験の詳細については各担当教員が留意し、学生に連絡を早めにするのを心がける必要があると思われます。

図3 基盤教育センター 基盤教育科目(人間社会学部 社会福祉学科)の成績評価アンケート結果

(4) 基盤教育科目(人間社会学部人間形成学科)



(4) -2

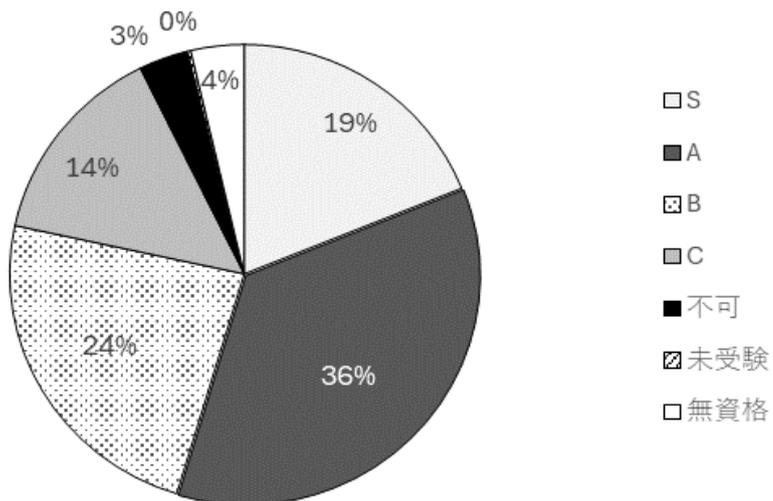
- 人間形成学科では、基盤教育科目において「透明性、客観性、妥当性、公平性が不足する科目がいくつもあった」との回答はありませんでした。2年生では、「なかった」が約90%、「無回答」は0名でした。「1つ2つあった」との回答は、「透明性」が3名、「客観性」が3名、「妥当性」は4名、「公平性」は3名となっています。1年生においては、「無回答」が4名、「なかった」が約90%でした。「1つ2つあった」は、「透明性」が0名、「客観性」が2名、「妥当性」は1名、「公平性」は0名となっています。
- 学生の学年・科目共に不明ですが、「テストの情報や結果が出るのが遅い。再試の有無の連絡もなかったと思う」との自由記述があった。各担当教員が留意し、学生に連絡を早めにするのを心がける必要があると思われます。

図4 基盤教育センター 基盤教育科目(人間社会学部 人間形成学科)の成績評価アンケート結果

・科目成績分布及び受講者数

(1) 基盤教育センター 教養科目全体の成績分布添付資料

基盤教育センター教養科目全体の成績分布



(2) 基盤教育センター 基礎ゼミ・発展ゼミ全体の成績分布

基盤教育センター基礎・発展ゼミ全体の成績分布

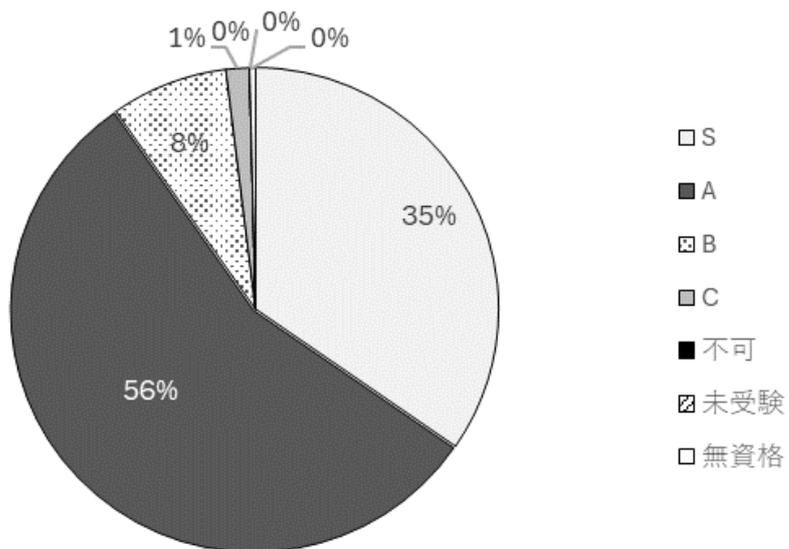


図6 基盤教育センター 基礎ゼミ・発展ゼミ全体の成績分布

(3) 基盤教育センター 言語科目別の成績分布

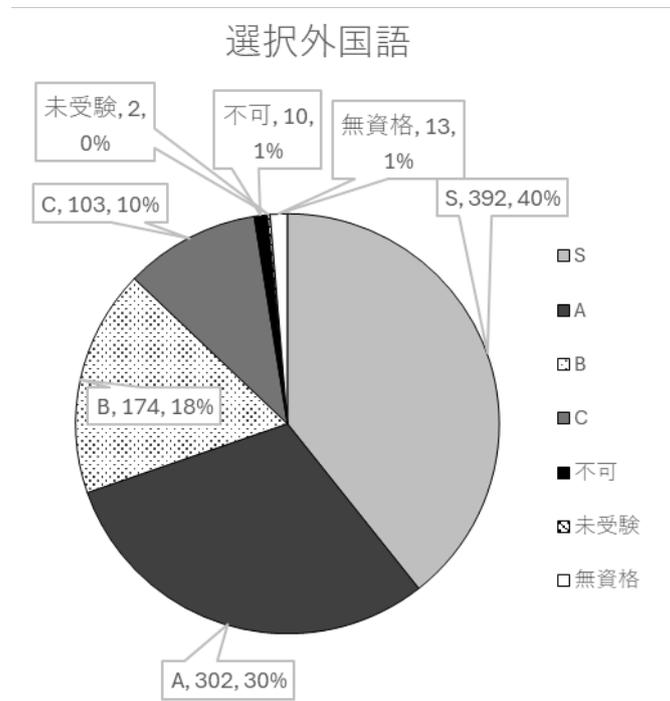
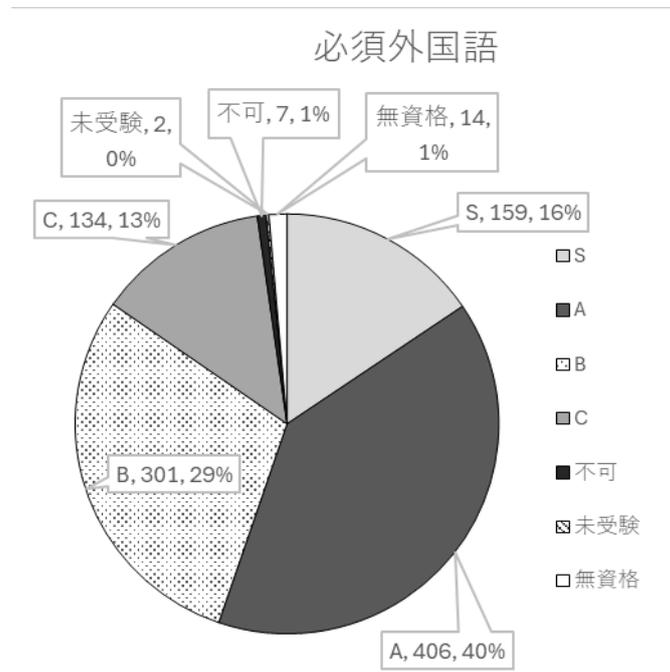


図7 基盤教育センター 言語科目別の成績分布

(4) 基盤教育センター 健康科学、情報科目の成績分布

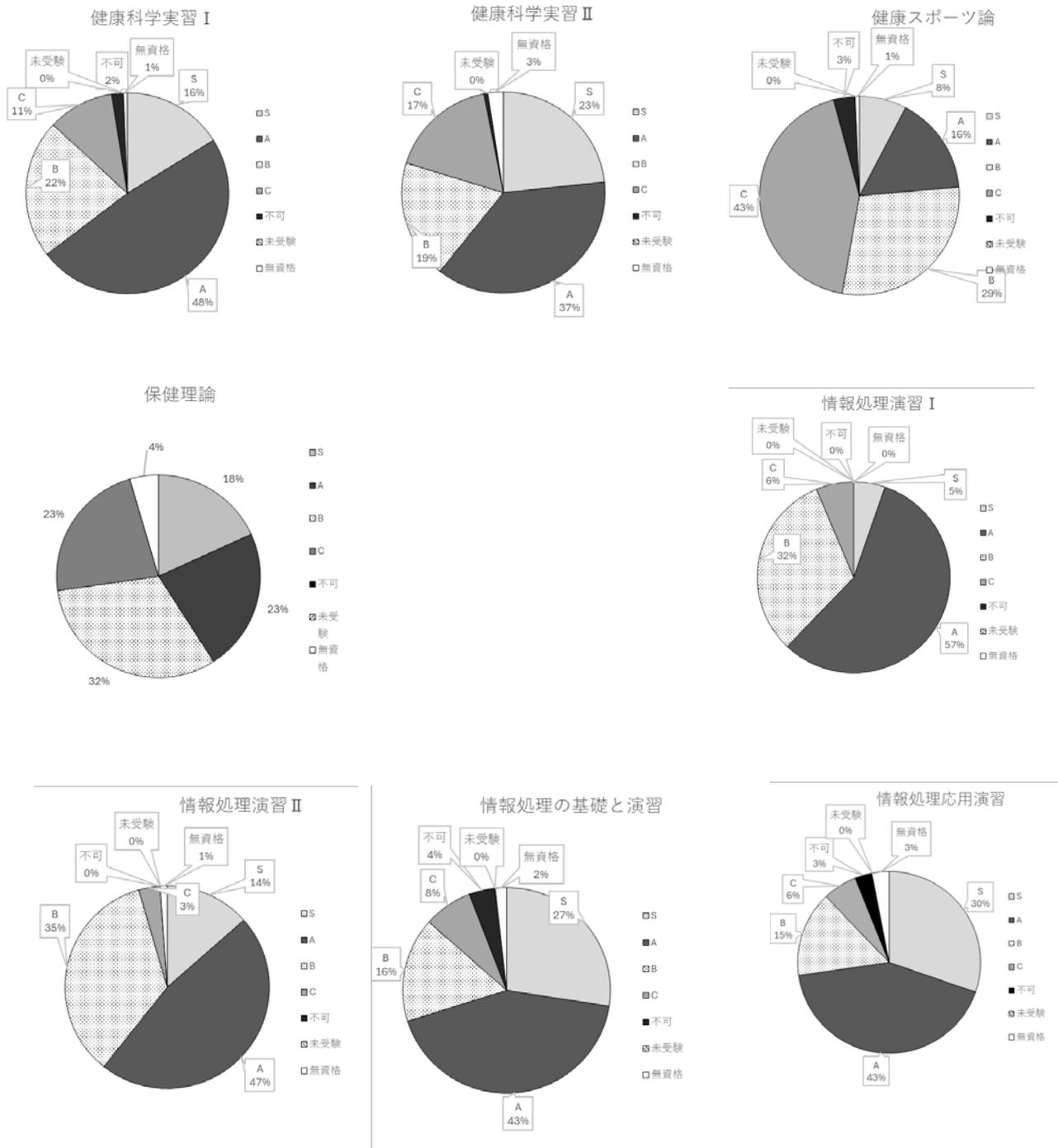


図8 基盤教育センター 健康科学、情報科目の成績分布

(5) 各授業の成績分布

① 教養科目

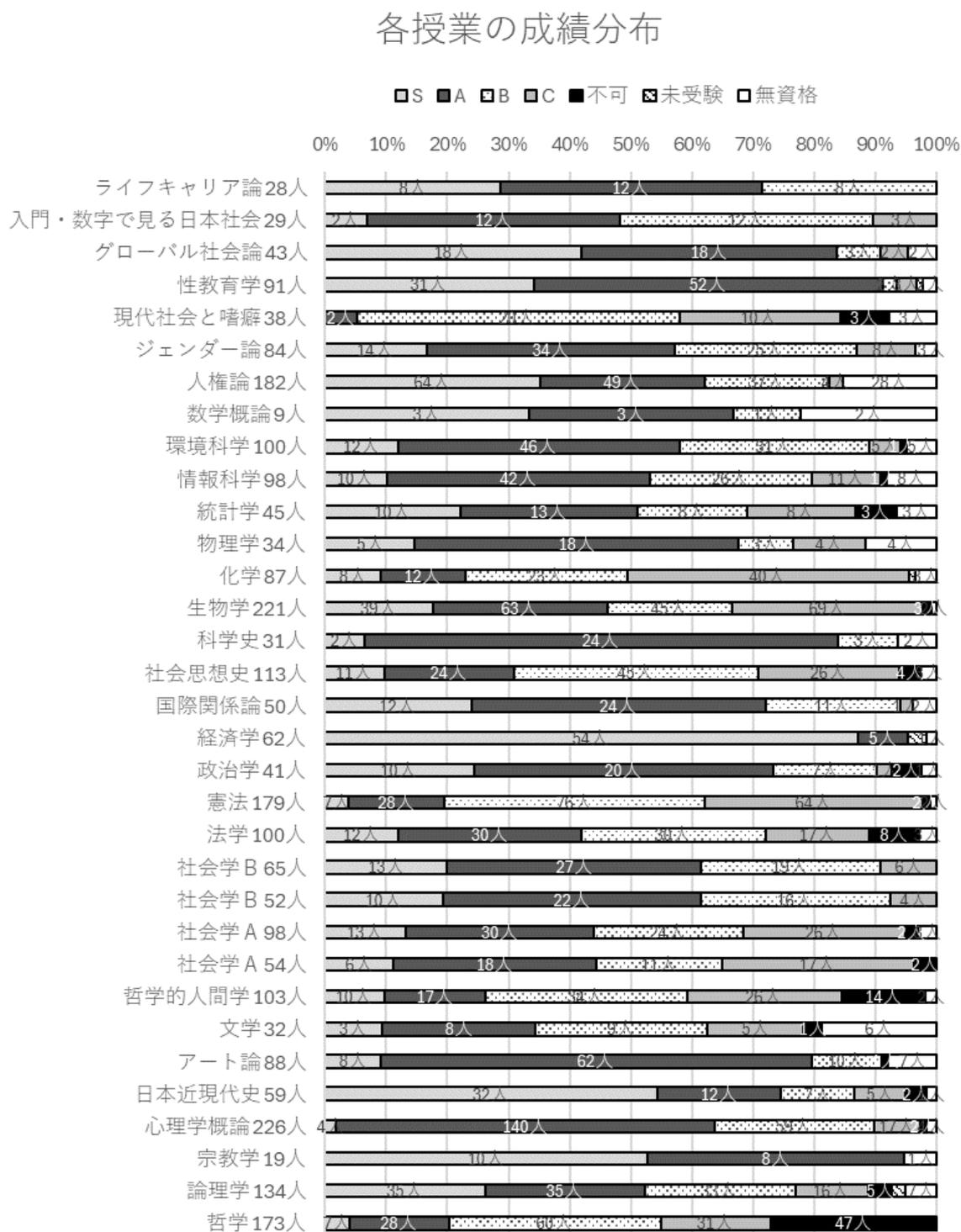


図9 基盤教育センター 教養科目の成績分布

② 基礎ゼミ・発展ゼミ

各授業の成績分布

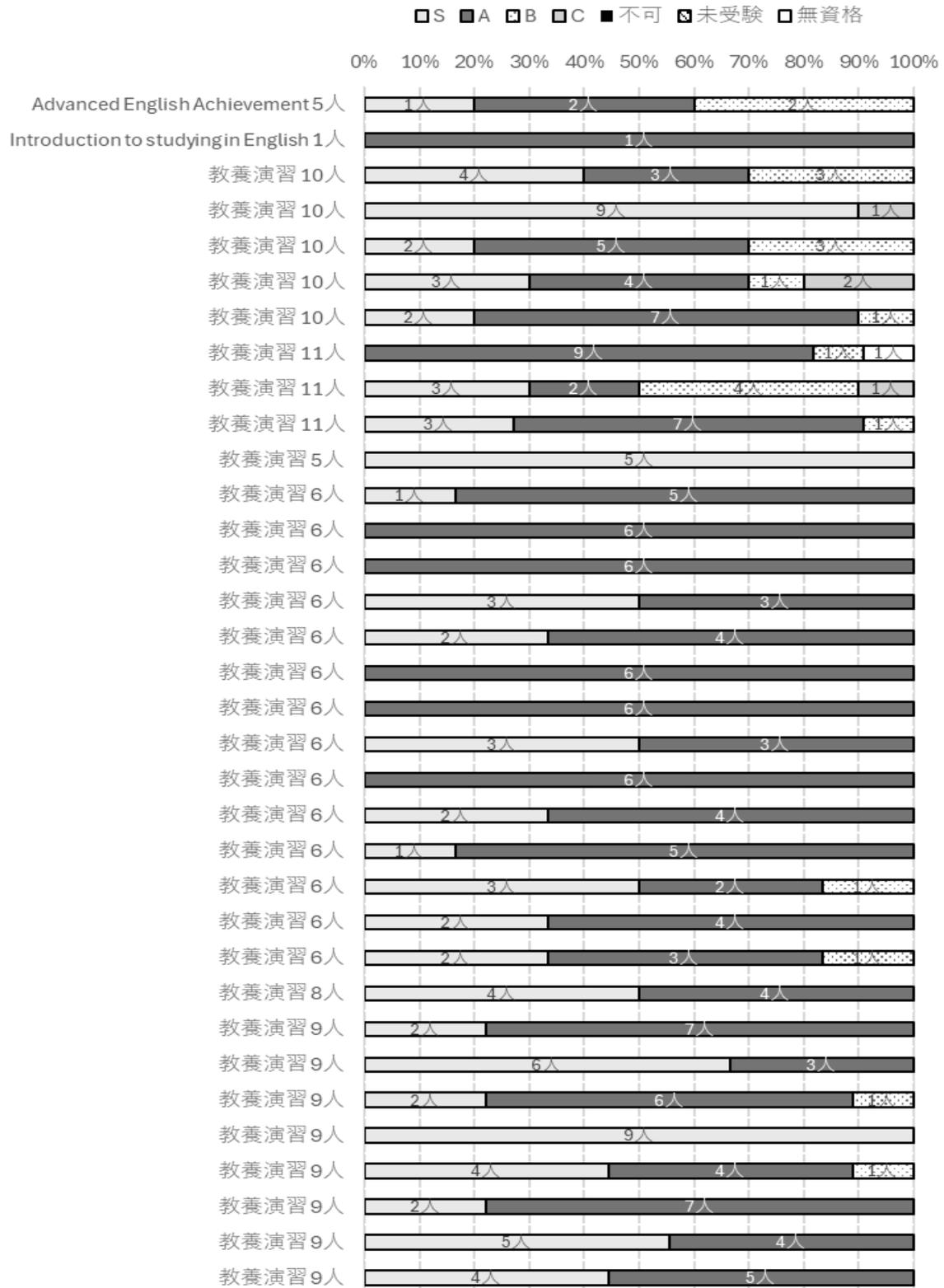


図10 基盤教育センター 基礎ゼミ・発展ゼミの成績分布

③ 言語科目

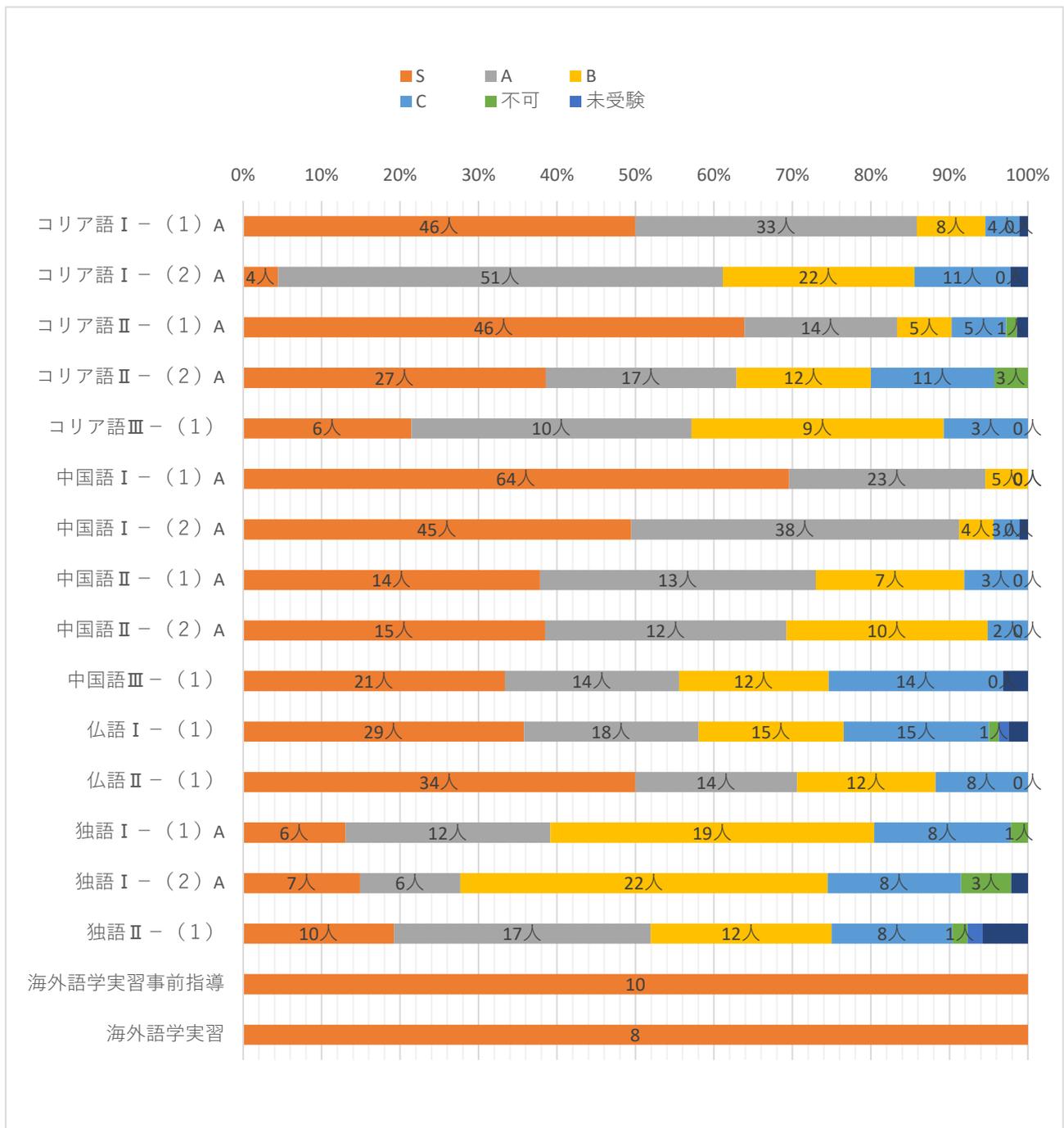


図11 基盤教育センター 言語科目の成績分布

④ 健康科学科目・情報科目

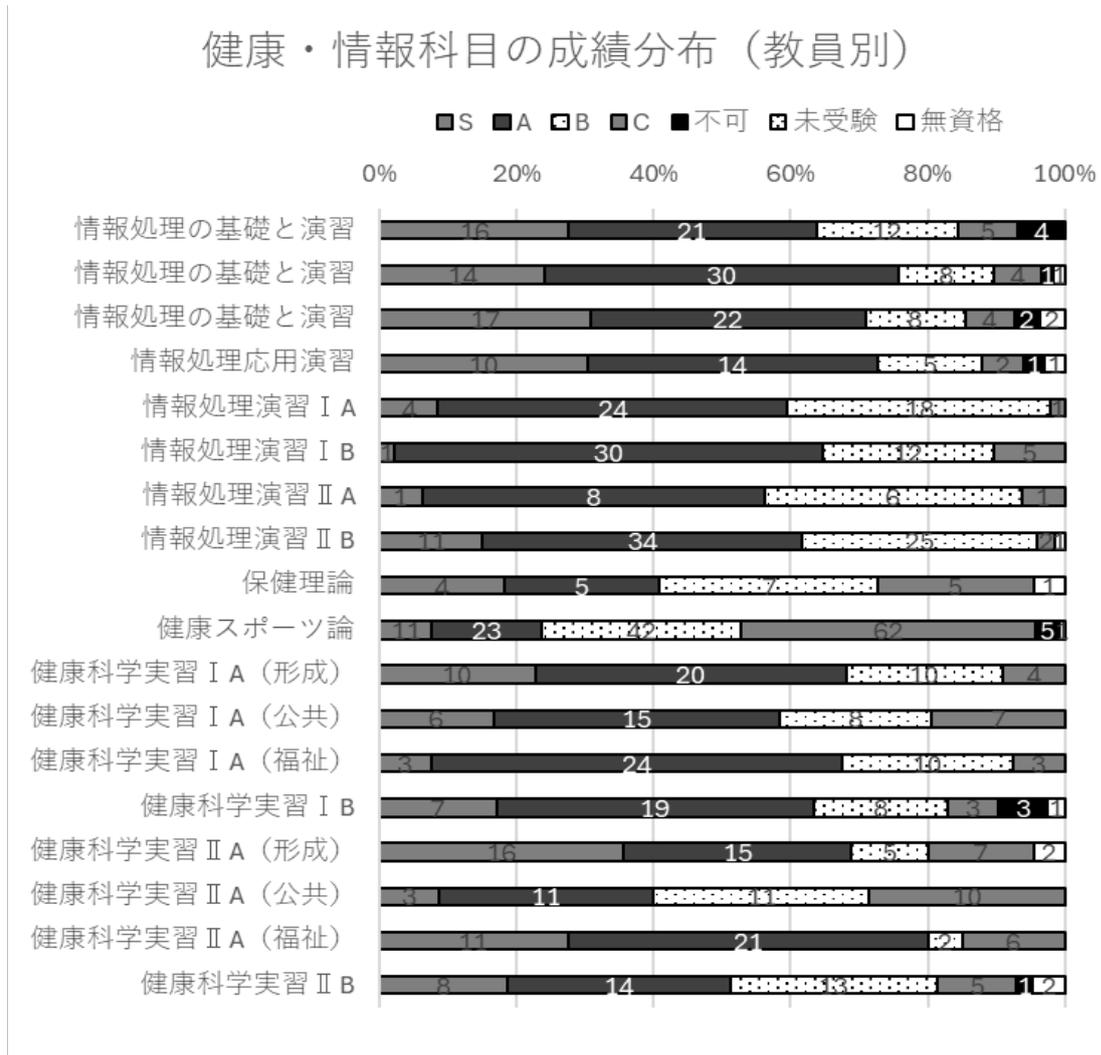


図12 基盤教育センター 健康科学の成績分布